

## 2020年度 在外研究制度 研究員

| 所属 | 氏名     | 職位  | 種別         | 期間                          | 主たる研究国 | 主たる研究先           | 研究題目  | 研究報告  | 備考                      |
|----|--------|-----|------------|-----------------------------|--------|------------------|---|---|-------------------------|
| 文  | 齊藤 弘平  | 准教授 | 長期<br>(1年) | 2021.2.1<br>～<br>2021.8.31  | アメリカ   | Tufts University | 19世紀末から21世紀にいたるまでの、アメリカ文学・文化全般と医学、心理学、精神医療の関係性について、知識史または文化史の観点からの研究。 | 研究課題でもある「19-20世紀アメリカにおける、文学と隣接諸科学（心理学、医学、経済学など）の影響関係」という観点から、affect theory（情動理論）、また F.Scott Fitzgerald、Djuna Barnes からアメリカ人モダニズム小説家たちの情動および心理の描写、について文献調査を進めた。                  | 新型コロナ感染拡大の影響により、研究期間の短縮 |
| 教育 | 高木 亜希子 | 教授  | 長期<br>(1年) | 2020.8.2<br>～<br>2021.3.31  | アメリカ   | ネブラスカ大学リンカーン校    | 英語科教員養成及び現職教員研修における省察を核とした言語教師の成長モデルの構築                               | これまで日本で収集してきたデータを分析・考察し、省察を核とした英語科教員養成及び現職教員研修における履修生と教師の学びと成長のプロセスを明らかにし、言語教師の成長の理論モデルを構築の試みを行った。また、科研の研究テーマ「英語教師の実践研究共有コミュニティ—先行研究に基づく理論的枠組みの検討—」に関する理論研究を行い、本テーマに関する論文を刊行した。 | 新型コロナ感染拡大の影響により、研究期間の短縮 |
| 国政 | 橋本 秀美  | 教授  | 長期<br>(1年) | 2020.4.29<br>～<br>2021.3.17 | 台湾     | 東華大学             | 鄭注『礼記』補疏  | 『礼記』の『典礼』『壇弓』二篇を読み、鄭玄注の意図を発掘した。孔穎達が藍本とした皇侃や熊安生は、鄭玄の学術をよく継承していたが、隋の劉炫の後を受けた孔穎達は既に現実を根拠とする経書解釈を基本としていた為、『礼記正義』には鄭玄をよく理解している部分と、無理解な部分とが混在していることも明らかとなった。                          | 新型コロナ感染拡大の影響により、研究期間の短縮 |